



「備えあれば憂いなし」防災に関する取組の実施

梅雨入りを前に5月末から6月にかけて、防災教育集会や合同避難訓練を行いました。八中校区はすぐ近くを球磨川や水無川が流れており、堤防が決壊すると大きな水害が予想されます。また、山が迫っており、地区によっては土砂くずれや土石流の被害も心配されます。万が一、自然災害が発生したらどのように対応するのか、まずは正しい知識を身に付けることが大切です。それに加えて、日頃から災害発生時の準備をしておくことも大事なことです。自分の命を守るだけでなく、家族や友達、地域の人々の命を守ることもつながります。

【取組①：防災教育全校集会】 5月29日（木）に、防災教育に関する全校集会を実施しました。防災教育担当の濱田先生から「“いざ”というときに」というタイトルで話をいただきました。講話では、「①いつ逃げるか」「②どこに逃げるか」「③どのように逃げるか」について、普段から考えておいてほしいとお話がありました。また、避難時の持ち出し袋について標準的な装備の他に、各家庭で準備する物が違うこともあり、それらも準備しておくことが必要ですと紹介がありました。



【取組②：さくら保育園との合同避難訓練】 6月3日（火）に、さくら保育園との合同避難訓練を行いました。この取組は令和2年7月に発生した熊本豪雨を受けて、令和2年度に始まったものです。大雨により川が増水し、保育園より支援要請があったという設定で、1年生が保育園へ行き、園児と手をつなぎ、一時避難所の中学校体育館まで誘導していくというものです。

園児にしっかりと寄り添い、園児の歩く速度に合わせて中学校まで誘導することができました。災害が発生したとき、中学生は大きな力となります。共助という観点からも貴重な経験となりました。

「つなげよう和服の文化」浴衣着付け教室



6月4日（水）、2年生は家庭科「つなげよう和服の文化」の授業で、和服の文化に関心を持ち、和服の着方を知るということを学習の目標として、昨年度に引き続き浴衣の着付け教室を行いました。

「八代市まちの先生派遣事業」を利用して、八代市文化協会会員で装授きもの着学院の4名の先生方にお越しいただき、浴衣の着付けやたたみ方などをご指導いただきました。先生方は、日本の伝統である和服の文化を若い世代に伝えるために、この「まちの先生派遣事業」が開設された当初から参加されており、これまで多くの高校生や学生に教えてこられました。今回初めて浴衣を着る生

徒もいたと思いますが、生徒はそれぞれしっかりと着付けの仕方について学んでいました。着付けが終わると担当の今村先生に思い思いのポーズで写真をとってもらいました。日常生活では浴衣を着るという機会がほとんどない中、とても有意義な経験をすることができました。

